

Circle ruki ruki-FXISS Presents FIVE 彼女 I

◇ 文月晦目 ◇ M I S O K A F U M I Z U K I



かみそ

18禁

※18歳未満の方は
お求めになれません



F

F

雛

I



...さん



...父さん



父さん

およろしくなら

PROLOGUE

FF 雑 1

garbled message

人には誰にだって忘れない過去や
変えたい記憶、長い月日で捻じ曲がってしまった思い出の
ひとつやふたつ、あるはずだ。

炎に包まれたニブルヘイム。
セフィロスの暴走。
父親の死。

あの時の私はただ、そうするしか出来なかった。
それが一番だと信じていた。
決して衝動的ではない。

願っていた結末だったの？
その後溢れた涙は具現化された後悔だったの？

父親の亡骸から引き抜いた刀を持つ私の一番の望みは
セフィロスに殺される事だったのかもしれない。

何処にでもある
ごく普通の家庭
普通だけど 毎日が
平和で幸福な日々



辺境の里ニブルヘイムで
「ニブル」一番の幸せ者が
ログセだった父が 私に
とっての自慢でもあった

母が死ぬまでは



美しく 強く お前も
母さんのように生きろと
ログセが変わった日から
次第に父の行動や言動も
変わっていった



ハア

父...さん?

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

——その夜 父は
親の殻を破り一匹の
ケダモノとして私の
寝室に訪れた

血走る瞳 浮出た血管
そして…… 以前見た
ソレとは明らかに違う
振り返った父のペニス

父さん？
え？何？

きゃ
やっ……
いやああああ
あああああつ！

その時の私は父親の
気に障る事をしたのかと
ひたすら謝るしかなかった

許しっ
あっ



ごめんなさっ
ごえんらさい

あ

あ

み
み

み
み

あ

何度泣いて謝っても
父の太い腕は私の衣服を
剥ぎ取る事を止めない
やがて全裸となった私の



『はじめて』が

ニギ





後で知ったのだが
この時 父は神羅から
横流しの『魔薬』を
手に入れていたらしい

気分を高揚させ
淫欲を活性化させる
裏の世界の常備薬
やがて精神を崩壊させ
肉体をも滅ぼす…



父の行為は何度射精しても
やむ事は無く 私が泣き疲れ
やがて抵抗をやめても
延々と繰り返された

やがて私は
父に徹底的に
調教された

父親に言われるまま
私は始めて見る中年の
男達の居る部屋に入った

あの……
ティファ……です

いいな ティファ
お前は客の傍で
酒を注いでれば
いいんだ

うん

今日はゆっくりして
いって下さい……ね

そんな辛気臭い顔するな
金が入ったら 後で
美味しいモンでも食いに
行こう

薄暗い部屋の中で酒を交わす
中年の男達は 私の入室を
確認すると ニヤケた顔で
中央のソファへと手招いた

……うん

ガタヤ

男の視線は明らかに私の胸やスカートに集中していた視線を顔と交互させ一層ニヤケる

こりや予想以上じゃねえか

ぐひっ

ふひっ

ぐひっ

…あの

ちよつとガキっぽい気がしなくもねえけど

今お酒を…お注ぎ…しますね

ガキだろうが要は俺らを満足させてくれる身体ならそれで良いんだろ

あつ

ちよとつやめてくださいっ

はははっ！ もう酒はいらねえよ！
今からはお嬢ちゃんの身体を嗜む時間だ！

父を信じていた部分が無い訳では無かったが心の奥底でこうなる事は薄々感づいていた

つまり
父は私を商売の
道具としたのだ

しゅんっ

何いまさらゴネてんだ
おめえには高い金
払ってんだよ

はあ

はあ

はっ
外して下さい

キィ
キィ

たぶん

はあ

おん
おん

キィ
キィ



うんぐつ!
ほぶぼつ!
うぼふう!

なんだこいつ
フエラもまともに
できねえのかよ



まあそう言うなよ
こんな田舎で
これだけ上物の女

マン汁じゃぶれる
だけでも 俺は
幸せだぜ



おらあ もつと
咽の奥に亀頭が
当たる位
飲み込めよ

萎えっから
歯あだけは
立てんなよ!



んんんんん
んんんんん
んんんんん

それにむしろ素人
っぽい方が 俺と
しては萌えるね



よおし おじちゃん
いれちゃうぞ？
ちよつと太すぎるかも
しれんが簡便な (笑)





膣内の具合の良いし
こりや思った以上の
名器かもしれんぜ

大物に化ける
ってか？



フェエラが気に入らねえ
ならこの柔らかか巨乳で
試してみるよ

抓つちや
……やあ

ひやぶっ

んあ

もみ

んおっ こりや
なかなかのパイ圧
じゃねえか
ふひひっ こりや
確かに名器だわ

溜まっていたモン
一気にこそうだ
おらつ 大きく
口開けて構えろ！

びん

ひ

びん

びん

びん



クワッ


ひん ぐわん

30分

クワッ


クワッ

あーあ
あーあ
あーあ
あーあ
あーあ
あーあ
あーあ
あーあ
あーあ




なんだかんだと
文句をつけてた男も
結局その後 3回も
射精していった

また近くまで来た
際には奇らせて貰うわ
次来るのが楽しみだぜ




自分の部屋に戻ると
父が嬉しそうに
お金の枚数を
数えていた

『仕事』を終えた
私に労いの言葉は
まったく無かった



昔の父の笑顔が
戻るかもしれないと
淡い期待を抱いた
だけに

金勘定で二ヤける
父の哀れな姿は
最早取り戻せない
時間を気付かされ
落胆した



それでも私には父しか
居なかった……
共に母の死を悲しんだ
私にとって唯一の肉親

その後も 父の
言われるがままに
様々な客の相手を
させられる事になる

やあ それ
やめてえ また
また噴いちゃう
よおお!

無理無理無理
無理無理無理
無理無理無理
無理無理無理
無理無理!



特に魔葉の横流しを
していた神羅兵へは
サーピスを強要され
それを知ってか
私への扱い方は
玩具同然であった

出ちやうとう



こちらがさっさと行為
を済ませたいのに対し
彼らは前戯のみを
延々と続け 私に
絶頂を繰り返させる

様々な体位を強要され
様々な部位を蹂躪する
アナルを性行為に使用
するものこの時知った

逆さにされアナルを
執拗に嘗め回した兵隊
の顔は今でも忘れない

はじめて中出し
されたのも彼らだ

父よりも体格の良い彼らは
葉の影響もあったのか
満足させるのに一般客の
倍の時間を要した

拒否権など無い
ただ痛みしかない行為に
私はひたすら耐えるしか
なかった

給水塔からの帰り道

朱色に染まるニブルヘイムを見る。

様々な思い出が炎と灰で包まれていく。

呆然と見つめる先で見知った老人がうつ伏せに倒れていた。

絶命した老人の背には刀が突き立てられおり

その長さからセフィロスの物である事は明白だった。

刀を引き抜き老人に手を合わせた私は父の安否を

確認する為に自宅へと向かう。

そこには大きな鞆に恐らくは大量に納まっているであろう

札束を抱えた父の姿があった。

不安に怯えるその姿には父親としての威厳は無く

ただ自らの命と金を守るのに必死な男は愚かで無様だった。

揺らめく炎の中で

私の心で燻ぶっていた何かの一つの選択の炎が灯った。



ティファア！何処行つて
やがった さつさと
こんな村出るぞ！



金はあるんだ！
今度は大きめの
街へ行つて
やり直す！

…うん




たまたまそこに

刀があつたから？



今までずっとしがみ付い
ていた父への好意は
母との思い出が詰まった
この村を安易に捨てる
言い放つた瞬間
殺意へと変わった



●今回時間足なくてページ数少なめなので何となく不足気味だったおっぱい分を補足。ラフですけど。あー、こんな感じでがっつりとちんこ挟まれて上目遣いでパイズリされてー！んでもってそのまま先っちょをちゅぱちゅぱ吸われてー><.....って願望。

●文月のパラレルっぷりも遂には父親殺しにまで発展してしまいました。今回初めてティファのガキんちょバージョンを描いてみましたが、文月の本を買う人の殆どはあんま喜ばないだろうなど、シーンは短めにしておきました。て言うか今回いつも以上にページ数少ないよね。面目ない。神羅の雑魚兵との絡みはもうちょっと描きたかったんだけど。親父が薬に溺れる辺りで過去作品にも登場した神羅製の薬との絡みの部分ももうちょっと詳しく描きたかった気もしたけど、こっちは説明臭くなりそうだし、まいった。

●今回はマンネリ化を防ぐ為に色々やっちゃった傾向にあり、かつ未消化で終わってるという何ともお粗末な感じ。処女喪失の辺とか父親を殺すまでの心情やら葛藤やら、後は上記でも書いた神羅兵との絡みの部分かな。足りて無いの。あと結果的に「ティファは神羅を憎む事に」って部分には繋げとかないって考えはありました。パラレルでも通じる箇所は作っところって感じ。「II」ではもちっと消化していきたいところです。

●本編だと説明臭くなるからと本当はココで薬に関するうんちく書く予定だったんだけど・・・今回本編に殆ど薬の事が出てこないのが割愛。その辺の件は次回の講釈で・・・。





●この度は当サークルの新刊をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。今回初めて手にとって頂いた方の為に補足を少々。

●本作「I」は作中での時系列においては1番最初の物語となるのですが発行順としては5作目となります。

「III」→「III1/2」→「IV」→「V」→「I」の順。

●元々数年前に「FF 黠」と言うイラスト集と「FF 黠 2」と言うFF:Uを題材にした同人誌を出していたのですが「3」以降はFF本と言うよりは完全にティファ本となってしまった為に2007年を区切りに「3」を「III」へタイトル変更。んで「I」と「II」は新たにティファ本としてリニューアルしようって事に。それが本作の誕生経緯です。

●前作「V」を買って頂いた方々は「あれ？次回作はVIでそれ済んでからIとIIやるんじゃないのかよw」とご不満の方も居られるかと思いますが気まぐれな作者故ご容赦ください。

●さて次回作こそ「VI」か？それとも「II」やっちゃうか？…はまだ決めてませんけれども2007年中に出せればと考えてます。

●それでは次回作でも皆様に手に取って頂けるよう奮起しつつ今回の後書きを締めさせていただきます。再見。

2007年8月某

←今回のボツ…と言うか時間の関係で削除されたページの1コマ。

奥

付



『 F F 翔 I 』

発行／るきるきEXISS

著者／文月晦日／ふみづきみそか

発行日／08月19日

印刷所／大陽出版株式会社

※無断転載禁止

※18歳未満の購入禁止

<http://misoka.net/>

mail : popjam99@hotmail.com

